

NJPPP セミナー「東京栄養サミット2020に向けて～日本の貢献～」アンケート集計結果

1. 業種割合：(回答者数・・・26名)

食品製造：16 (61.5%)、コンサルタント：1 (3.8%)、学術機関：2 (7.7%)、政府機関：1 (3.8%)、食品小売業：2 (7.7%)、NGO/NPO：1 (3.8%)、その他：3 (11.5%)

2. セミナーの感想：

1) 外務省およびJICAによる講演について

- ・東京栄養サミットの全様の理解ができた。
- ・東京栄養サミットまでの流れや、コミットメントの規模感がよくわかった。
- ・外務省、農水省中心に政府機関共同で日本の食文化、食品産業の貢献をアピールすべく大会準備を進められていることが分かった。
- ・東京栄養サミットの中身が少し具体的に見えてきた。また、企業に対する期待等も伝わった。
- ・栄養サミットが四年に一度開催で本年12月に迫っていること、参画する民間企業に求められていること等のイメージができた。
- ・栄養サミットの目的やコミットメントの具体的な要件が分かりやすかった。
- ・昨年10月の関連セミナーでは詳細がなかったが、企業に求めるコミットメントの具体例が示され参考になった。
- ・共に食品企業として興味深い内容であったと同時に、取り組みとしてのコミットと、社内の意思としてのコミットと、双方を考える必要を感じた。
- ・開発のコンテキストにおける栄養の考えが理解できた。
- ・各社の具体的な取り組み内容を聞くことができた。また、栄養について啓蒙するだけでなく実践の為に簡単にできることもあるとわかった。
- ・多くの国で栄養をテーマにする取り組みに関わっており、その中に少なくない日本企業が参加していることがわかった。
- ・一般の方々には、全然浸透されていない。
- ・栄養サミットについての理解に役立った。具体的な取り組みがわかった。
- ・栄養サミットに向けた対策がイメージできた。サミットの準備状況が理解できた。
- ・欲しい情報を手に入れられた。
- ・初めて参加し、すべてが新鮮であった。他社の取り組みもわかり、大変よかった。
- ・企業の参画を働きかけて、コミットメントを引き出そうとしている点が印象に残った。
- ・企業としてどのようにコミットメントしていくのか、今後の課題も含め学べた。

2) パネルディスカッションの感想

- ・前回の外務省の発表と大きな変化はなかった。
- ・一部の企業向けの会合のような印象であった。
- ・より具体的な課題として、コミットの内容についてどこまでとするかは、悩ましいところ。
- ・コミットメントについて、どのくらいの企業が積極的に考えているのか知りたい。
- ・コミットメントの難しさについて理解が進んだ。
- ・質問時間があり、企業の聞きたいことに回答いただけ、良かった。

- ・もっと Q&A の時間がほしかった。
- ・質問に対する質疑応答が多く、パネラー同士での意見交換などが見られなかったのが残念であった。
- ・発言内容は良かったが、情報発信方法が一次的で、パネリスト間でのディスカッションがあれば更に良かったと感じた。
- ・ディスカッションではなく、事業紹介になっていた。
- ・具体的な栄養改善のプロジェクトのプレゼンが、A4一枚の5分トークだけでは、もったいないと思った。特に質疑応答を前半取らなくて、パネルディスカッションの時間が質疑応答になったのは、時間配分が不足した感があった。もう少し、話を聞きたかった。
- ・企業としてコミットメントしたことのある食品企業の課題解決的な話もいただければよかった。
- ・企業がどのような経緯でその国の支援を行うようになったのかを伺いたかった。
- ・企業の取組みが興味深かった。もう少し企業の内部での取組み（なぜ取り組んだか？取組みにあたる社内意見等）に焦点を当てて話してほしかった。
- ・栄養サミットに特化すべきだった。
- ・各登壇者様の気さくなお話ぶりがとても印象的だった。議事進行もスムーズで中だるみもなく、2時間半が短く感じられた。
- ・教育や啓蒙がいかに大切かという事例だと感じた。日本の技術や知見をそのまま現地に導入するのではなく、そこに根付かせる工夫等が重要。
- ・踏み込んだ質問もあったが、実際に企業としてどう取り組んでいくのか難しい点もあるが、積極的に取り組んでいくことが大切だと思った。
- ・栄養改善についても官民連携が重要であることを再認識できた。

3. 1) NJPPP に期待する支援内容について：

- ・引き続き、政府・国際機関・アカデミア・NGO などとの接点になってほしい。
- ・政府、NGO、企業、学術機関を繋ぐプラットフォームなので、Win-Win-Win-Win になるよう切り込んでほしい。
- ・学術（研究機関）と食品企業との連携促進。
- ・一社の取組みだけでなく、日本の企業として総括的な取組みができるよう調整役として機能してほしい。
- ・日本は企業ごとに得意分野に集中しているという話があったが、得意な部分がどこで活かせるのかについては、もっと情報を得る必要があるため、そのあたりの支援が必要。
- ・存在（日本および世界における意義も含めて）をもっと広く周知してほしい。
- ・タイムリーな情報発信。
- ・途上国向けの改善事業なら悪くないと感じたが、国内相手であると食べ残しや賞味期限切れで食べられる商品が処分されるケースが多すぎるが先決。民間の小さな企業や個人レベルで知恵を出せるような状況を望む。
- ・各企業がそれぞれ力を出し合っていくために活動の詳細など情報共有できればと思う。
- ・各国ごとの現状の具体的な問題点の共有をしてほしい。
- ・小売業に期待されていることについて具体的に知る機会があると有難い。
- ・海外の業界団体は栄養サミットに向けたコミットメントの取りまとめを進めている。一方、日本の企業の窓口たる NJPPP は説明会のみでとどまっているのは残念。本パネルディスカッション程度の提示では日本が埋没する。

2) 東京栄養サミットへの参画に際し、現段階での課題

- ・企業の参加の仕方、窓口が不明瞭。
- ・参画することへの企業メリットが見えにくいこと。コミットメントを出すことのメリットと質。
- ・コミットメントが足切りされないか、コミットメントがどのように評価されるのか。
- ・本日の話にあったように、フォローアップの体制構築が難しい。高い目標にしすぎると、せっかく取り組みをしているにもかかわらず、プラスの評価を得られない可能性も高くなる。
- ・貢献分野が検討できていない。どのような分野で参画できるか検討が必要。
- ・現在、栄養改善についての課題が社内で優先事項になっていないため、コミットメントを出せる状況にない。
- ・事前状況が読み難い。政府からの情報が限定的であること。
- ・コミットメントの手順と時期、他企業との調整および社内調整。社内体制や進め方。
- ・担当部署があくまで発信部署であり、実行部隊でないこと。
- ・関係省庁との連携、日本としての打ち出しとの整合性。
- ・コンサルタントは自分で仕事を探すしかない。
- ・自社及び自業界にとって実現可能な数値目標と、国際機関が求める達成目標のギャップが大きな課題。
- ・日本全体での発信力が弱い。栄養サミットの存在を知らないこと。